令和6年度難聴児の早期支援充実のための連携体制構築事業 取組概要　【静岡県教育委員会】

目的・目標	<目的> 聴覚障害のある乳幼児の教育相談において、乳幼児期から就学までの切れ目ないより効果的な支援体制の構築を図る。 目標 (1) 医療、保健・福祉、教育の関係機関の効果的な連携、支援体制を構築する。 (2) 医療機関等との連携を強化することにより、聴覚特別支援学校乳幼児教室の療育、支援機能を向上させる。 (3) 聴覚特別支援学校乳幼児教室担当者の資質の向上を図る。

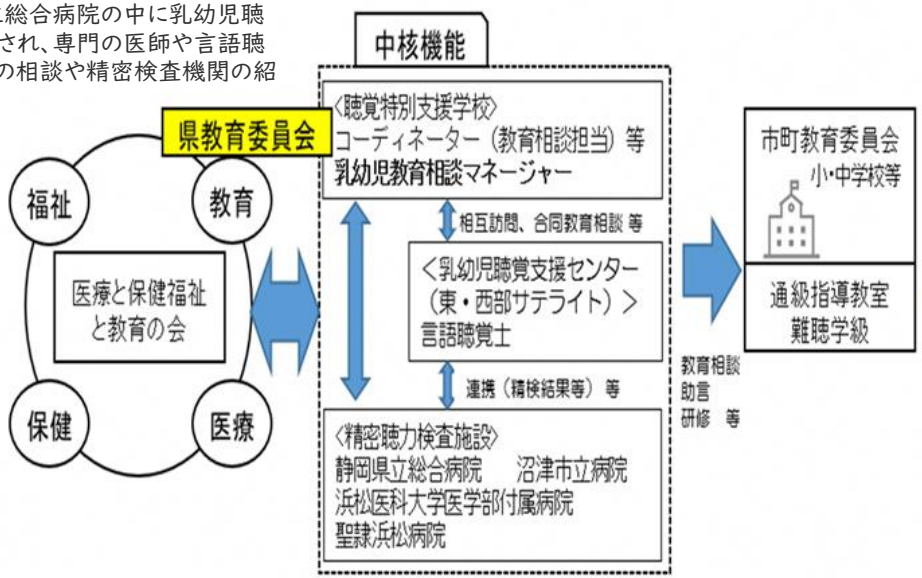
研究協力校	静岡県立沼津聴覚特別支援学校 静岡県立静岡聴覚特別支援学校 静岡県立浜松聴覚特別支援学校

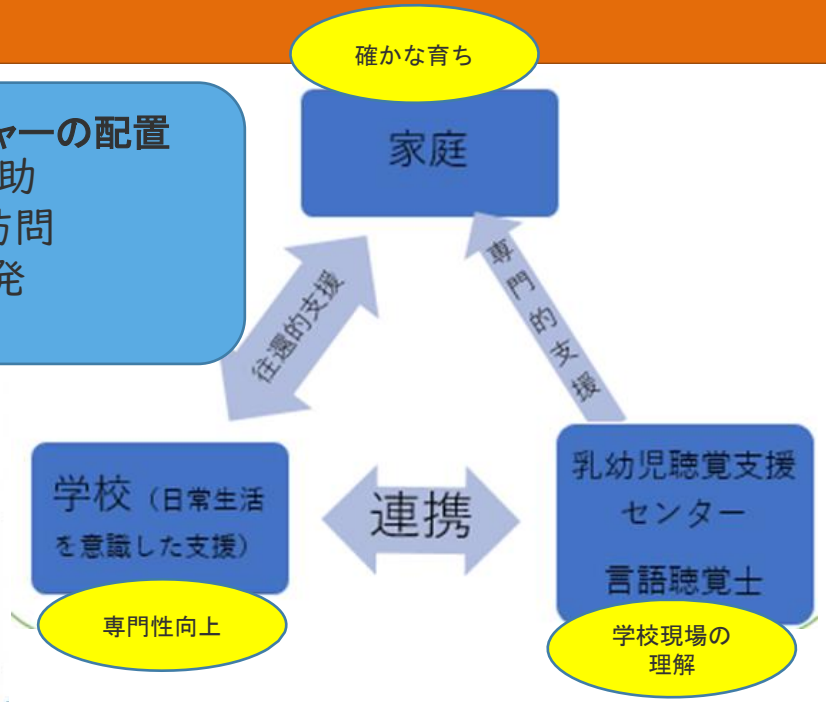
取組概要

静岡県乳幼児聴覚支援センターとの連携
・静岡県聴覚障害児を考える医療と保健福祉と教育の会
・月例運営協議会
・就学支援ワーキンググループ

乳幼児教育相談マネージャーの配置
・乳幼児教室の助言・援助
・幼稚園や小学校等の訪問
・支援ツール、教材の開発

静岡県乳幼児聴覚支援センター
平成22年に、静岡県立総合病院の中に乳幼児聴覚支援センターが設置され、専門の医師や言語聴覚士が聞こえについての相談や精密検査機関の紹介等をおこなっている。





医療機関、言語聴覚士との連携
・聴覚特別支援学校とケース会議
・保護者・教員向け講座
・保護者や担当への助言

令和6年度難聴児の早期支援充実のための連携体制構築事業 取組概要　【静岡県教育委員会】

①特別支援学校（聴覚障害）を中核とした教育相談の機能強化

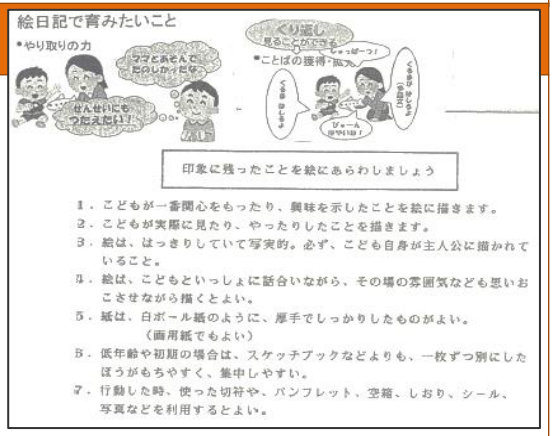
・「聴覚障害児を考える医療と保健福祉と教育の会」へ参加
　→学校は医療機関の取組を理解し、聴覚特別支援学校の実践を発信
・医師や言語聴覚士との連携会議の実施
・言語聴覚士が学校の乳幼児教育相談や学習会に参加
・3年間かけて、圏域となる市町教育委員会や行政機関に聴覚特別支援学校の教育相談の紹介と難聴児「発掘」のための協力依頼を実施
（浜松聴覚特支）

②特別支援学校（聴覚障害）における乳幼児教育相談担当者の専門性向上

早期支援と保護者支援の充実のため、聴覚障害教育や乳幼児保育に詳しい乳幼児教育相談マネージャーを3つの聴覚特別支援学校に配置

・個別の指導計画作成への助言
・乳幼児教室運営に関する担当者への母子支援の実際、教材、掲示物、おたより等の助言
・保護者への助言、学習会、家庭訪問
・聴力測定の方法・注意点、保護者・乳幼児教室担当者の言葉掛けでの注意点　等

※乳幼児教育相談マネージャー作成資料→



絵日記で育みたいこと

＊やり取りの力

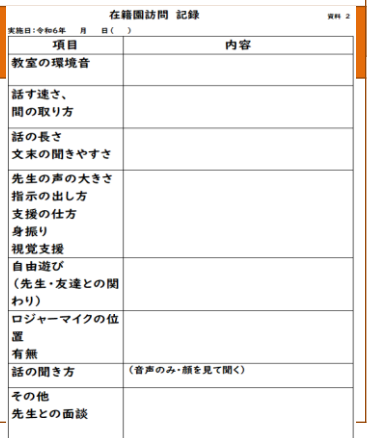
＊ことばの獲得・拡充

印象に残ったことを絵にあらわしましょう

1．こどもが一番関心をもったり、興味を示したことを絵に描きます。
2．こどもが実際に見たり、やったりしたことを描きます。
3．絵は、はっきりしていて写実的。必ず、こども自身が主人公に描かれていること。
4．絵は、こどもといっしょに話合いながら、その場の雰囲気なども思いおこさせながら描くとよい。
5．紙は、白ボール紙のように、厚手でしっかりしたものがよい。（画用紙でもよい）
6．低年齢や初期の場合は、スケッチブックなどよりも、一枚ずつ別にしたほうがもちやすく、集中しやすい。
7．行動した時、使った切符や、パンフレット、空箱、しおり、シール、写真などを利用するとよい。

③幼稚園、小学校等における支援の質向上

・担当者と乳幼児教育相談マネージャーで保育園等の訪問や家庭訪問の実施
（聞こえの状態に応じた環境整備、関わり方等を整理して簡潔に伝えるために在籍園訪問シート作成）
・教育相談に来ている乳幼児の保育園担当者来校、指導参観 の実施
・県西部地区市町教育委員会や行政機関に対して、聴覚特別支援学校の教育相談の紹介と難聴児「発掘」のための協力依頼。学校や地域保健部局等へ周知（浜松聴覚特支）



在籍園訪問　記録　　資料 2

実施日：令和6年　月　日（　）

項目	内容
教室の環境音	
話す速さ、間の取り方	
話の長さ 文末の聞きやすさ	
先生の声の大きさ 指示の出し方 支援の仕方 身振り 視覚支援	
自由遊び（先生・友達との関わり）	
ロジャーマイクの位置 有無	
話の聞き方	（音声のみ・顔を見て聞く）
その他 先生との面談	

令和6年度難聴児の早期支援充実のための連携体制構築事業 取組概要　【静岡県教育委員会】

本事業の成果	**医療、保健・福祉、教育の関係機関の効果的な連携** ・医療機関と連携することで、聴覚障害に関する最新の動向や乳幼児期からの切れ目のない支援について関係者間での理解が深まった。 ・実態把握や環境設定、支援等について、特別支援学校の担当が在籍校の担任等に助言をした。担任等が支援の改善や環境の整備をしたことにより、児童から「教員の話が聞こえやすい」、「友達も支援機器を使ってくれるようになった」という声も聞かれた。 **医療機関等との連携強化による 支援機能の向上** ・聞こえの発達段階や理解の仕方、家庭環境など、様々な要素を考慮したあらわれの捉え方とそれに対する具体的な支援方法の提案があり、その後の支援につなげることができた。 **乳幼児教育相談マネージャーの配置による乳幼児教育相談担当者の資質向上** ・教育相談の準備、実施、反省等で適宜助言や、モデル提示等があることで、コミュニケーションや言葉、自己肯定感を育むための関わり方について理解を深めることができた。
課題と今後の展望	○遅れて難聴が発見されるケースがあったり、病院等にかかっていても小中高等学校で補聴システムをうまく活用できていなかったりするケースがある。 →聴覚特別支援学校と県教育委員会と市町教育委員会が連携して、一層の理解啓発促進 ○言語聴覚士とのケース会議や、教育相談への参加は、本人や保護者への支援の向上だけでなく、聴覚障害教育に携わる教員の専門性向上にもつながると期待できる。 →乳幼児聴覚支援センターの言語聴覚士と連携して共同の教育相談の実施、保護者研修や教職員研修、連携体制の構築に向けた協議等に取組む。 ○令和7年度も、3校全てに教育相談マネージャーを配置する計画であるが、その対象を乳幼児期に留まらず、学齢期まで広げるかは検討が必要 →聴覚特支のセンター的機能の役割を小中高等学校でもより一層発揮できるようにする。